

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 全日制の課程

Ⅱ 国 語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問五** までであり、1ページから14ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目（例：）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号								
番								

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の a ～ d の各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 物音が静寂を破る。 (1) じようせい 2 せいじゃく 3 じようせき 4 せいしゆく ()
b 事態を收拾する。 (1) しゅうそく 2 しゅうしゃ 3 しゅうしゅう 4 しゅうごう ()
c 試供品を頒布する。 (1) はんぷ 2 りようふ 3 ぶんぷ 4 はいふ ()
d 経済成長が著しい。 (1) おびただ 2 はなはだ 3 めまぐる 4 いちじる ()

(イ) 次の a ～ d の各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 生物をケイトウごと分類する。
1 老舗のデントウを守る。 2 強豪校との対戦にトウシを燃やす。
3 国会でトウシユが意見を述べる。 4 水をフットウさせる。
b 書類にインカンを押す。

- 1 会議でイツカンした方針を示す。 2 結果を聞いてカンセイをあげる。
3 植物の名前をズカンで調べる。 4 洗った服をカンソウさせる。

- c 庭の花壇にキュウコンを植える。
1 教室でキュウシヨクを配膳する。 2 感激のあまりゴウキュウする。
3 犬には鋭いキュウカクがある。 4 大空をキキュウに乗って旅する。

- d 木彫りの像に細工をホドコす。
1 学校でうさをシイクする。 2 自動車をセイゾウする。
3 地質調査をジッシする。 4 建築の許可をシンセイする。

(ウ) 次の俳句を説明したものとして最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

松本 たかし

- 1 朝寝をして日が高く昇ってから外へ出た自身の様子を「朝寝かな」と余韻を持たせて表し、昼間に活動を始めたことで春の日の光の温かさを植物とともに味わえた喜びを鮮明に描いている。
2 春の朝に植物の芽がほころぶ様子を「ほぐれほぐる」と動きを重ねて表すことで、盛んに活動する植物と日が高くなるまで眠りの心地よさを味わっている自身の姿を対照的に描いている。
3 春に向けて庭に植えた多様な植物を「ものの芽」と表現して一般化することで、自身が朝寝をしている間にも土の中で発芽に向けて準備を進める植物の生命力の強さを印象深く描いている。
4 寒さの厳しい冬を乗り越えた植物がゆっくりと芽を伸ばしつつある様子を「朝寝」にたとえ、植物の動きから春の訪れを感じることで生じた自身の気持ちの高まりを情感豊かに描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

大学生の「僕」は、気象学の教授である「藤巻先生」^{かじまき}から息子の家庭教師を頼まれ、中学生の「和也」^{わや}に勉強を教えている。ある日、「僕」は藤巻家での夕食に招かれ、「藤巻先生」「奥さん（スミ）」「和也」と食事をするようになった。食事が進む中、「和也」が「藤巻先生」の研究に疑問を投げかけたことをきっかけに、雰囲気が一変した。「奥さん」がとりなしてくれたが、「和也」は納得できない様子で口を開いた。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(瀧羽 たきわ 麻子 あさこ 「博士の長靴」から。一部表記を改めたところがある。)

(ア) — 線1 「和也はまんざらでもなさそうに立ちあがった。」とあるが、そのときの「和也」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 幼い頃に描いた空の絵に対して毎朝空を観察している父親が賞賛の言葉を口にしたことで、絵の出来映えを確信して気持ちが舞いあがり、喜びのままに絵を持ってこようとしている。

2 幼い頃に毎朝絵を描いていたことを父親から評価されてうれしくなったものの、親にほめられて喜ぶ姿を「僕」に見せるのが恥ずかしく、慌てた様子で居場所を変えようとしている。

3 幼い頃に描いた絵の素晴らしさを自覚してはいるものの、父親の前で「僕」にほめられることを想像すると照れくさくなり、不真面目な発言をしてその場から離れようとしている。

4 幼い頃に描いた絵をほめてくれた父親に対して素直に喜びを表すことに抵抗を感じ、気持ちをこまかすような発言をしつつも、うれしさをにじませて絵をとりにいこうとしている。

(イ) — 線2 「うん、と先生はおざなりな生返事をしたきり、見向きもしない。」とあるが、そのときの「藤巻先生」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 研究の話をしている最中に、状況を理解しないで絵のことを話しかけてくる「和也」に対して、戒めのためにあえて冷たく振る舞っている。

2 芸術に関しては詳しくなく、絵に対して適切な評価ができないため、「和也」の呼びかけに気づかないふりをして話を続けようとしている。

3 「和也」の呼びかけに応じて絵を見ると、客が始めた話を中断することになると気づき、話が終わるまで待つようにと態度で示している。

4 研究に関係のある話をしているうちに、研究についての思考に没頭してしまい、「和也」の絵のことに対して意識が向かなくなっている。

(ウ) — 線3 「自室にひっこんでしまった和也を呼びにいく役目を僕が引き受けたのは、少なからず責任を感じたからだ。」とあるが、そのときの「僕」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 絵に関するやりとりの際に「和也」の気持ちが明るくなったと気づいていながら、「藤巻先生」に絵とは関係ない話をして結果的に「和也」を落胆させてしまったため、何とかしたいと思っている。

2 父親に見せるために「和也」が必死になって絵を探していることがわかっていながら、「藤巻先生」の話聞くことに夢中で結局「和也」を手伝うことができなかつたため、申し訳ないと思っている。

3 「和也」が幼い頃の話をされて嫌がっていることを察していながら、「藤巻先生」が思い出話で盛りあがっていくのをとめられず結局「和也」を怒らせてしまったため、機嫌をとろうと思っている。

4 「和也」が絵をきつかけに父親と将来の話をしたいと思っっていることを知っっているながら、「藤巻先生」の話の中断できず結果的に「和也」の気持ちを踏みにじってしまったため、心苦しく思っっている。

(エ) 線4 「親父があんなに楽しそうにしているの、はじめて見たよ。」とあるが、そのように言ったときの「和也」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 父親に向かって「僕」が熱く語る姿に憧れを感じつつも、「僕」のように自信を持って取り組めることのない自分が、父親の前で堂々と振る舞えるはずがないと投げやりになっている。

2 「僕」が父親から優秀な研究者として認められていることを感じとり、「僕」と違って勉強が得意ではない自分が、父親の期待に応えて研究者になれるのかどうか不安に思っている。

3 「僕」と一緒に過ごす中で自分の知らない父親の一面が現れたのを見て、「僕」と違って研究に関する話題を共有できず、父親から関心を示してもらえない自分に無力さを感じている。

4 口数の少ない父親が「僕」と一緒にいるときはよく話すということに気づき、「僕」のように話を聞くことに徹すれば、自分も父親とうまく関係を築けるのではないかと期待している。

(オ) 線5 「わからないひとだよ、きみのお父さんは。」とあるが、ここでの「僕」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 息子には得意なことをしてほしいという「藤巻先生」の考えを理解していながらも、まずは目の前にいる「和也」を慰めようと思いい、わかっていない様子をよそおっているように読む。

2 熱心な研究者でありながら息子に後を継ぐことを強制しない「藤巻先生」は、自分たちの理解を超えた存在であるということを、「和也」だけでなく自分にも言い聞かせるように読む。

3 「藤巻先生」が学校の成績を気にすることはないと言いながらも家庭教師を依頼したのは、息子に仕事を継がせたいと思っているからだということを、「和也」に訴えかけるように読む。

4 「藤巻先生」の話し相手になっている自分に対し、父親のことを理解できているに違いないと決めつけてくる「和也」の態度に圧倒され、自分も理解できていないと打ち明けるように読む。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「藤巻先生」と「和也」がすれ違いながらも親子として互いを思っている様子を、夏のひとときを両者とともに過ごした「僕」の視点から描いている。

2 父親に反抗的な「和也」の態度に戸惑いつつも将来のことを「和也」に考えさせようとする「僕」の姿を、多くの擬態語や慣用語を用いて描いている。

3 「僕」と関わる中で誤解に気づいた「藤巻先生」と「和也」が互いを許し歩み寄っていく様子を、親子同士の短い言葉のやりとりによって描いている。

4 父親と関わる「僕」を見たことで研究者になることを決意する「和也」の姿を、幼い頃に描いていた絵にまつわる「和也」の回想をまじえて描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(ハナムラ チカヒロ「まなざしの革命」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) アイデンティティ \parallel 他と区別する自分らしさ。

アインシュタイン \parallel ドイツ生まれの理論物理学者(一八七九 \sim 一九五五)。
プレゼンテーション \parallel 提示すること。

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1 A 例えば | B ただし | 2 A しかし | B または |
| 3 A むしろ | B そして | 4 A やはり | B つまり |

(イ) 本文中の~~~~線Ⅰの語と同じ熟語の構成になっている語を、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1 携帯 | 2 名言 | 3 送迎 | 4 尽力 |
|------|------|------|------|

(ウ) 本文中の~~~~線Ⅱの「よう」と同じ意味で用いられている「よう」を含む文を、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 妹はすでに出かけたようだ。 | 2 明日は早く起きようと思っている。 |
| 3 週末は一緒に映画を見ようよ。 | 4 雨が滝のように降っている。 |

(エ) 線1「私たちが見方を変えるのは、自分にとって都合の悪いことが起こったときだ。」とあるが、そのことについて筆者はどのような考えを述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 不都合なことが起きた場合には、自身の個人的な欲求で都合よく物事を捉えるのではなく、世間において大多数の人が持っている認識に従おうとする傾向が強い。
- 2 都合の悪いことが生じたときには、自身の認識にこだわるのではなく、他者の意見や新しい知識を積極的に取り入れることで発想の転換をしようとする傾向が強い。
- 3 不都合なことが生じたときには、新たな見識を身につけて自身の認識を変えるのではなく、直面している物事を自身が受け止められるように捉え直す場合が多い。
- 4 都合の悪いことが起きた場合には、自身が長い時間をかけて身につけた認識を改めるのではなく、問題を生じさせている相手に意見を変えるよう求めることが多い。

(オ) 線2「私たちのまなざしはもう変えられないほど固定化してしまう。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 深刻な事態の連続を解消するために新たな答えをつくり出すことが求められる中で、失敗を恐れるあまり一度成功した解決法にこだわってしまい、別の見方ができなくなっていくということ。
- 2 深刻な事態の連続で答えが定まらない状況から逃れようとして、自身にとって都合のいい側面だけに注目することを繰り返すうちに、自身の見方を改めることができなくなっていくということ。
- 3 深刻な事態が続いて誰も対応できないという状況に陥ると、自身の信念を揺るぎないものにして社会に貢献しなければならぬという使命感が働いて、見方が動かさなくなっていくということ。
- 4 深刻な事態が続いて他人を信用することができなくなり、自分以外に頼れる人はいないという意識が強まった結果、徐々に自身の見方を絶対的なものとして捉えるようになっていくということ。

(カ) 線3「そんな常識」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 一度も教わったことがないにもかかわらず、全ての人間が生まれつき持っている同じような考え。
- 2 さまざまな時代を経て受け継がれていく中で、人々が何度も正確性を検証してでき上がったもの。
- 3 幼い頃から多くの人と触れ合い多様な経験をすることによって身につく、人によって異なる考え。
- 4 無意識のうちに自身の考えのようになっていく、長い間人々の共通認識として扱われてきたもの。

(キ) —線4「危機に際しても同じことが言える。」とあるが、それを説明したのとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 危機の前提となっている常識が覆りそうになると、常識を根拠に正当性を主張していた人々が政治家の責任を追究しようとするかもしれないということ。
- 2 危機の前提となっている常識が根本から変わりそうになると、新たな発見や発明をすることで常識を守ろうとする人が出てくるかもしれないということ。
- 3 危機の前提となっている常識が覆りそうになると、常識が変わることによって不利益を被る人々が不都合な事実を隠そうとするかもしれないということ。

4 危機の前提となっている常識が根本から変わりそうになると、常識をもとに進められてきた政策に社会全体が関心を示さなくなるかもしれないということ。

(ク) —線5「社会では次の常識を巡る『まなざしの戦い』が始まる。」とあるが、「まなざしの戦い」に關して筆者はどのような考えを述べているか。それを説明したのとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 物事の解釈に影響を及ぼすような情報が提示され、中には常識を覆すようなものもあるが、異なる主張にもとづいた膨大な数の情報が入り乱れているため、適切な選択をするのは困難である。
- 2 物事の解釈を揺るがそうとしてさまざまな情報が示されるが、中には根拠のないようなものも混じっているため、専門的な知識を駆使して検証しない限り、正解を探し出すのは困難である。
- 3 物事の解釈に影響を与えることを目的として情報が提示されるが、常識が通用しないような情報も存在しているため、複数の観点から捉え直さない限り、妥当性を判断するのは困難である。
- 4 物事の解釈を揺るがすような情報が提示され、多くの情報がそれらしく見えるようにつくられているが、実体は非科学的で根拠のないものであるため、正確なものを選ぶのは困難である。

(ケ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 常識と見方が強く結びついていて、これを指摘するとともに、社会で常識が果たす役割について確認し、見方を変化させるためには常識を活用することが有効だと論じている。
- 2 見方の固定化が起こる経緯を述べた上で常識について説明し、多様な見方が生み出されている現代において、常識に対する自身の見方を振り返ることの必要性を論じている。
- 3 社会に影響を与えている見方が常識によって固定化されたものであることを明らかにし、見方を変化させることの利点を説明しながら、情報発信の際の留意点も論じている。
- 4 見方と解釈の違いを明確にしながら長年社会で常識とされてきた見方に疑問を投げかけ、常識にとらわれず、自身の見方を強固なものにしていくことが重要だと論じている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高倉天皇は、幼くして帝位に就いた。

去んぬる承安(注)の頃ほひ、御在位のはじめつつかた、御年十歳ばかりにもならせたまひけん、あまりに紅葉を愛せさせたまひて、北の陣(注)に小山を築かせ、櫓(注)、楓の色美しうもみちたるを植ゑさせて、紅葉の山と名づけて、終日に観覧(注)あるになほ飽き足らせたまはず。

しかるを、ある夜、野分(注)はしたなう吹いて、紅葉みな吹き散らし、落葉すこぶる狼藉(注)なり。殿守の伴のみやづこ、朝清めすとてこれごとごとく掃き捨ててんげり。残れる枝、散れる木の葉をかき集めて、風

すさまじかりける朝なれば、縫殿の陣(注)にて、酒あたたためてたべける薪にこそしてんげれ。奉行の蔵人、行幸より先にと急ぎ行いて見るに、跡かたなし。「いかに。」と問へばしかしかと言ふ。蔵人、大きに驚き、

「あなあさまし。君のさしも執(注)しめされつる紅葉を、かやうにしけるあさましさよ。知らず、汝等、只今、禁獄(注)流罪にも及び、わが身もいかなる逆鱗(注)にか預からんずらん。」と嘆くところに、主上、いとど

しく夜のおとどを出でさせたまひもあへず、かしこへ行幸なつて紅葉を観覧なるに、なかりければ、「いかに。」と御尋ねあるに、蔵人奏すべき方はなし。ありのままに奏聞(注)す。天気ことに御心良げにうち笑ませたまひて、「林間煖酒焼紅葉」といふ詩の心をば、それらには誰が教へけるぞや。やさしうも仕りけるものかな。」とて、かへつて観感(注)に預かつし上は、あへて勅勘(注)なかりけり。

〔平家物語〕から。

(注) 承安 平安時代の年号。一一七一―一一七五年。

北の陣 天皇の住まいの北側にある門。「縫殿の陣」ともいう。

殿守の伴のみやづこ 天皇の住まいで、庭の掃除などをする人。

蔵人 天皇の近くで仕える人。

行幸 ここでは、天皇が来ること。

天気 天皇の機嫌。

林間煖酒焼紅葉 書き下し文では「林間に酒を煖めて紅葉を焼く」と書く。中国の詩人、白居易の詩の一節。
勅勘 天皇が罪を責めること。

(ア) —線1「終日に叡覧あるになほ飽き足らせたまはず。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 高倉天皇は、小山の紅葉を一日中独り占めするのはもったいないと思い、多くの人たちと一緒に紅葉を眺めているということ。

2 高倉天皇は、小山に木を植えさせただけでは満足できず、紅葉が美しい他の山へ出かけて一日中紅葉を眺めているということ。

3 高倉天皇は、小山の紅葉を一日中眺めているうちに物足りなく感じ始め、紅葉している木を増やそうとしているということ。

4 高倉天皇は、小山に植えさせた紅葉を一日中眺めていてもまだ眺め足りないと思うほど、紅葉に夢中になっているということ。

(イ) —線2「蔵人、大きに驚き」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 紅葉した木は暴風で葉が散らされたことで観賞に向かなくなってしまったが、「殿守の伴のみやづこ」が機転をきかせ、高倉天皇が暖をとるための薪として枝や葉を役立てたから。

2 暴風が吹いて散らばった紅葉を「殿守の伴のみやづこ」が片づけ、残っている枝なども酒をあたためるために燃やしてしまった結果、高倉天皇が見る紅葉がなくなってしまったから。

3 見頃を迎えた紅葉が暴風によって散らされてしまったことに「殿守の伴のみやづこ」がいち早く気づき、紅葉の様子を見た高倉天皇が悲しむことのないよう、燃やして片づけたから。

4 酔っ払った「殿守の伴のみやづこ」が紅葉の山に無断で立ち入り、酒をあたためようとして散り落ちた葉に火をつけたことで、高倉天皇が植えさせた紅葉まで燃やしてしまったから。

(ウ) —線3「それらには誰が教へけるぞや。」とあるが、そのように言ったときの高倉天皇を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「林間煖酒焼紅葉」という詩の一節を「殿守の伴のみやづこ」がうまい具合に再現したのを見て、立場に合わない振る舞いをしたものだからかっている。

2 自分を喜ばせようとした「殿守の伴のみやづこ」が「林間煖酒焼紅葉」という詩の一節をひそかに学んでいたということがわかり、心を動かされている。

3 「殿守の伴のみやづこ」の行動を「林間煖酒焼紅葉」という詩の一節と照らし合わせることで趣のある振る舞いとして捉え、感心した態度を示している。

4 ずっと前に自分が教えた「林間煖酒焼紅葉」という詩の一節を「殿守の伴のみやづこ」が覚えており、見事に詩の場面を再現してみせたことに驚いている。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 目覚めてすぐに紅葉の様子を見に来た高倉天皇は、処罰されることを「蔵人」が恐れる中で「殿守の伴のみやづこ」の行動を褒め、誰にも罰を与えることはなかった。

2 気分良く目覚めた高倉天皇は、「蔵人」の心配をよそに紅葉の様子を受け入れ、「殿守の伴のみやづこ」の働きによって新たな楽しみ方に気がついたことを喜んだ。

3 いつもより早く目覚めた高倉天皇は、紅葉の様子を見ただけで何が起きたかを把握して「殿守の伴のみやづこ」の行動を許し、「蔵人」に事情を尋ねることはなかった。

4 紅葉の様子を心配して早く起きた高倉天皇は、言い訳ばかりする「蔵人」にあきれ、事情をありのままに報告した「殿守の伴のみやづこ」の正直さを高く評価した。

